

森林吸収源インベントリ情報整備事業 現地講習会（岡山県会場）

開催地：岡山県真庭市後谷（格子点 ID 330135）

開催日：2008（平成 20）年 8 月 21 日（木）～ 22 日（金）

講師：三浦（責任者）・吉永・橋本^徹（森林総研）・溝口（森林総研関西）

参加者：片桐・牧本・田中・柏原（岡山県） 亀井（広島県） 山中・藤原・中村（島根県） 末長（山口県） 山本・石森（環境計測（株））

概要：

初日は午後 1 時に中国道落合 IC 出口に集合し、そこから後谷地区へ全員で移動。桜本寺で車の台数を調整して調査地に入った。天候は晴れだったが、上空に寒気が入った影響で気温は低めで快適であった。調査地はヒノキ造林地だが比較的林内は明るく、鈍頂尾根を含む形のプロットであるが、尾根を外れると急傾斜（40 度以上）になる地形であった。下層植生としてはヒサカキ、リョウブ、ネジキなど乾燥条件下で頻出する灌木類が優占しており、草本は乏しかった。母材は堆積岩で、風化が比較的進んでいるため礫は少なめで、かつ半腐朽のものが多かった。自己紹介とスケジュール説明の後、まず、調査地概況調査の要点を説明した。続いて、岡山県に用意していただいた枯死木サンプルを用いて、枯死木調査の分解度判定について説明し、その後 4 班に分かれて NESW の各地点で堆積有機物量調査と土壌炭素蓄積量調査の説明及び実際の試料採取を行った。この地点では、特に尾根部で厚い H 層が発達しており、東側の炭素量調査断面では H 層 6cm、HA 層 5cm を記載し、多量の H 層を採取した。この後、簡単な質疑応答を行い、初日のスケジュールを終了した。

2 日目は曇天で気温が低く、作業には快適であった。午前 9 時に現地入りし、西と北の 2 地点で代表断面調査を行った。本調査地はグレード 1 であり、本来代表断面は一つでいいのだが、参加者が実際に断面に触れる機会を増やし、全員に少しでも多くの実習をしてもらうため、断面を二つ掘削し、2 班に分かれて講習を行った。断面観察の過程で面白いことがわかった。2 断面はほぼ同じ等高線上で 20m ほど離れたところにあるが、断面の様子が全く異なっていた。北側の断面は鈍頂尾根に沿って下った急傾斜地にあり、H 層はあるが薄い。土壌は赤みがやや強く、根は比較的表層に集中し、土壌構造にも強い乾燥の影響をうかがわせるものは出現しなかった。こちらは $B_0(d)$ と判定した。西側の断面は急傾斜（42 度）の匍行斜面にあり、数 cm の H 層が発達していた。土色は比較的淡く、根は断面下層まで発達しており、断面全体にわたって粒状構造が発達し、堅果状構造も見られた。整形された断面には、粒状あるいは堅果状構造のつぶつぶ感が全層に渡ってはっきりと現れていた。土壌型チェックシートと照らし合わせると、その特徴はほとんどの項目で B_0 と一致した。今回見られた異なる土壌型の判定において、チェックシートを用いる方法が有効であることが確認された。現地で見える限り、両者の違いは母材の岩質の違いによ

るものと推察された。講習では、2断面を行き来して参加者全員に土壌の違いを確認してもらった後に、それぞれの断面で化学分析用および容積重測定用定体積試料のサンプリングを行った。断面の説明と質疑が2断面分になったため、予定の時刻をかなりオーバーし、午後1時30分過ぎに全てのスケジュールを終えて現地（桜本寺）で解散した。

日 程：

1日目（8月21日）

- 13:00 中国道落合 IC 出口集合
- 13:30～ 調査地到着、調査概要説明
- 14:00～ 枯死木調査の説明
- 14:30～ 土壌炭素蓄積量調査（4班4方位）
- 17:30 初日現地実習終了

2日目（8月22日）

- 9:00～ 調査地到着
- 9:10～ 代表断面調査講習（2班2断面）
- 13:30 講習会終了、解散

参加者15名（他に地権者の方2名が見学された）



調査地概況調査説明



土壌試料採取の実習



尾根部で見られた非常に良く発達したH層



代表断面調査の説明（西側断面）



代表断面調査の説明（北側断面）



土壌断面（西側：B_g）



土壌断面（北側：B_g(d)）